

令和5年度(2023年度)第1回函館市東部地域まちづくり懇談会会議録

- ◆日時 令和5年11月20日(月) 14:00～15:45
- ◆会場 南茅部総合センター 1階講堂
- ◆内容
 - 1 開会
 - 2 座長挨拶
 - 3 出席者紹介
 - 4 議題
 - (1) 函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について
 - (2) 地域活性化の取り組みについて
 - 5 その他
 - 6 閉会
- ◆出席者 別添「出席者名簿」参照
委員(出席者16名 欠席者4名), 事務局ほか(11名)
- ◆報道関係 なし

1 開会

司会 (南茅部： 外山課長)	<p>ただいまから、令和5年度第1回東部地域まちづくり懇談会を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めさせていただきます、南茅部支所地域振興課 課長の外山と申します。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>懇談会開催要項6(1)により、開催担当支所は、一年度ごとに持ち回ることとなっており、本年度につきましては、南茅部支所が担当させていただきます、座長は南茅部支所長が務めさせていただきます。</p> <p>また、開催要項6(3)に基づき、本日の懇談会は、公開とさせていただきます。</p>
----------------------	---

2 座長挨拶

司会	それでは、本日座長を務めさせていただきます、南茅部支所長の池田より、ご挨拶申し上げます。
座長 (南茅部： 池田支所長)	<p>皆さんこんにちは。私は、本日の懇談会の座長を務めます、南茅部支所長の池田でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>開会にあたりご挨拶をさせていただく前に、まず、本懇談会には昨年度からご出席をいただいております、函館東商工会の中市敏樹会長が、去る10月26日でございますけれども、誠に残念ではありますが、ご逝去の報に接したところであります。ここに謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。</p> <p>それではあらためまして本日ご出席の皆さまにおかれましては、ご多忙中のところご参集いただき本当にありがとうございます。また、日頃より東部地域のまちづくりにご協力をいただいておりますことに、心よりの感謝を申し上げます。</p> <p>さて、本日の懇談会でございますが、お手元の次第にありますとおり、議題といたしまして、昨年度から継続討議をしております、議題(1)、函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方につきまして、公共交通を所管する企画部から、これでもう彼らは3回目の出席となりますけれども、だいぶお馴染み感のある横山課長ほか交通政策課のメンバーから、直近の状況を報告いただきます。</p> <p>具体的には、このたび「函館市地域公共交通計画」の素案がまとまったということで、その説明をいただいた後に、皆</p>

	<p>様からご意見を頂戴したいと思っております。これが(1)でございます。</p> <p>議題(2)は、地域活性化の取り組みについてでございます。</p> <p>我々東部4支所管内は、人口減少の波が大きく押し寄せておりますが、そうした中であって昨今、新たに地域に移住された方がお店を開いたり、市民発意のまちづくり活動やイベントが生まれたり、あるいは行政と大学がタッグを組んだ地域づくり活動が展開されたりと、これまではあまり見られなかった動きが活発化しておりますので、</p> <p>本懇談会は、「地域のまちづくりにつなげる」こと、これを目的としておりますので、この場でこうした昨今の動きをご紹介させていただくことで、皆様との意見交換を通じて、最終的には、これは私の勝手な思いでございます、「自分たちも何か始めよう」とか、あるいは、こうした動きを知って、「応援しよう」というムードづくりの一助になればと考えておりますので、本日はよろしくお願ひしたいと思っております。</p> <p>会議は1時間半程度を目途に考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
--	--

3 出席者紹介

<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日お集まりいただきました皆様方をご紹介いたします。</p> <p>私の方で、お名前をお呼びしますので、恐れ入りますが、その場でご起立をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市第26方面民生児童委員協議会 植野会長です。 ・函館東商工会 関谷理事です。 ・函館市戸井支所 佐藤支所長です。
-----------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・戸井地区町会連合会 松田会長です。 ・函館市第 27 方面民生児童委員協議会 蔦会長です。 ・函館市恵山支所 清藤支所長です。 ・恵山地区町会連合会 長田会長です。 ・函館東商工会 畠山事務局長です。 <ul style="list-style-type: none"> ・函館市第 28 方面民生児童委員協議会 新谷会長です。 ・函館市楳法華支所 三原支所長です。 ・楳法華地区町会連合会 川口会長です。 <ul style="list-style-type: none"> ・函館市第 29 方面民生児童委員協議会 佐々木会長です。 ・南かやべ漁業協同組合 中村専務理事です。 ・函館東商工会 佐藤副会長です。 ・南茅部町内会連絡協議会 熊谷会長です。 <p>以上，座長の南茅部支所長池田を交えまして 16 名の方々にご出席いただいております。</p> <p>また，事務局やオブザーバーとして，各支所地域振興課職員のほか，企画部からも参加いただいております。</p> <p>以上，皆様，よろしくお願いいたします。</p>
--	--

4 議題 (1) 函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方について

座長	<p>それでは議題に入らせていただきます。</p> <p>議題の(1)は「函館市東部地域路線バスの現状と今後のあり方」でございます。</p>
----	--

	<p>昨年度は、本懇談会を2度開催いたしました。その際の議題は、何れも東部地域の公共交通に関するものでございました。</p> <p>第1回目の懇談会では、市の公共交通を所管する企画部から、路線バスの現状、これまでの取り組み、そして今後のあり方などについて説明がありました。</p> <p>2回目では、今後の取り組みといたしまして、令和5年度中に『函館市地域公共交通計画』の策定を目指している旨、説明があったところであります。</p> <p>こうした中、このたび函館市の地域公共交通計画の素案の取りまとめがなされましたので、東部地区に関連する項目等について、企画部から配布資料に基づき説明をさせていただき、その後、皆様からご意見を頂戴したいと存じます。</p> <p>あらためて、本庁で「公共交通」施策を担当する企画部交通政策課の職員を紹介いたします。</p> <p>担当課長、横山課長でございます。</p> <p>渡辺主査でございます。</p> <p>沼田主任主事でございます。</p> <p>それでは資料説明を横山課長お願いします。</p>
<p>企画部 交通政策課 横山課長</p>	<p>企画部計画推進室交通政策課の横山です。</p> <p>それでは、私の方から資料の内容についてご説明いたします。</p> <p>昨年度のこの懇談会でもお話しいたしましたが、現在策定作業を進めております「函館市地域公共交通計画（素案）」の概要と、この計画の中で、東部地域に関係する部分を抜粋し、ご説明いたします。</p> <p>まず、資料1ページ目「函館市地域公共交通計画（素案）の概要」をご覧ください。</p>

概要 1 の「はじめに」ですが、

この計画策定の趣旨といたしましては、人口減少や少子高齢化に加え、コロナ禍の影響により、取り巻く環境は一層厳しさを増し、将来にわたって公共交通の需要低迷が懸念されることから、地域住民の生活などを支える持続可能な交通体系を構築するため、地域の公共交通政策のマスタープランとなる「函館市地域公共交通計画」を策定する、としております。

計画区域と期間ですが、計画区域は函館市全域、計画期間は来年度令和 6 年度から令和 10 年度までの 5 年間としていくところでございます。

次に、2 の「計画の位置付け」ですが、

本計画は、国の関係法令・関連計画や北海道の関連計画を踏まえ、市の総合計画などとの整合・連携を図りながら策定する、としております。

次の 3 から 5 は、昨年度実施した調査の結果のうち、代表的な項目のみ取り上げております。

まず、3 の「函館市の人口の特性・現状」ですが、

函館市の人口は減少傾向であり、市の推計によると令和 27 年には、人口が最も多かった昭和 55 年の約半分の 17 万 3 千人になる予想となっており、1980 年と比較して現在の 2020 年、そして将来の 2045 年はかなり人口が減り、年齢構成も若年層から高齢層へ重心が移っていることが分かります。

次に、4 の「公共交通の現状」ですが、

こちらには、路線バスの現状を記載しております。まず、左の図に示されている市街部における路線バスの現状ですが、各系統が複雑に入り組んでおり、運行の効率性や路線のわかりやすさに課題があります。

また、右の図は路線バスの利用者数の推移を示しておりますが、これまで、市内のバス利用者は概ね横ばいで推移しておりましたが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少しています。

次に、5の「市内における移動特性・ニーズ」ですが、左のグラフは市民アンケートによる地区別の公共交通に対する満足度を示したもので、北東部地区・北部地区・東部地区、主に市電の通っていない地域にお住まいの方は、満足度が他の地区より低くなっております。

右の図は、函館バスのサービスエリアに関するものです。黄色やオレンジは当該地域の人口を示しており、青色の丸はバス停から500mの範囲を示しております。黄色やオレンジの色が見えている部分は、最寄りのバス停まで500m以上離れている地域になります。

この調査の結果、バス停から500m以内という観点で見ると、人口の約95パーセントをカバーできておりますが、東部地域を含めた市内の一部にカバー率が低い地域が存在しているということがわかります。

6の「解決すべき公共交通の課題」ですが、

これまで実施いたしました各種調査等の結果、洗い出された函館市内の公共交通に関する問題点を踏まえ、本計画で対応すべき公共交通の課題として4つの項目をとりまとめました。

1つ目が「バス路線網が複雑に入り組んでいるなど、高齢者の通院・買物、通勤・通学、観光客にとって利用しにくい」というものです。

アンケート調査からも、公共交通は高校生の通学や通勤、また、自家用車を利用できない高齢の方にとって重要な移動手段であり、今後の高齢化率の上昇を考えますと、公共交通による移動手段の確保はより重要なものとなってまいります。市民アンケート調査では、公共交通に対する改善点として、運行本数の少なさに次いで、路線のわかりにくさや乗継環境の改善が多く挙げられているところです。

2つ目が「路線バスなどの公共交通の利便性が低いエリアが存在」というものです。

地区ごとに公共交通の状況に違いがありますが、東部地区では利用者が少ないことから運行便数が少なくなっているほか、バス停までの距離が遠いことなどにより、さらに利用者が減少するという負のスパイラル、いわゆる悪循環に陥っております。

3つ目が「人口減少に加え、コロナ禍により、路線バスなどの利用者数が低迷」というものです。

今後、人口減少に伴い、公共交通の利用者もさらなる減少が予想されます。特に東部地区は、高齢化率が他地区と比較して高く、地区内人口の減少率もかなり高くなっており、公共交通の利用促進を図っていくことに相当な困難が伴うことが懸念されております。

4つ目が「バス・タクシードライバーの高齢化などにより、公共交通の担い手が不足」というものです。

路線バス事業者へのヒアリングの中でもありましたが、地域のバス・タクシードライバーが高齢化し、ドライバー不足がバス路線の維持に支障をきたすようになっております。また、現在協議が進められている北海道新幹線札幌開業に伴う地域交通の確保方策によっては、更なるドライバー不足が懸念されるところです。

2 ページ目をご覧ください。

7の「計画の基本的な方針・目標」につきましては、先程説明いたしました解決すべき課題を踏まえ、基本理念を、「まちづくりと一体となった将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークの構築」としているところです。

基本方針の1つ目といたしましては、「市民生活を支える効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの形成」としております。

公共交通は、移動手段を持たない高齢者の通院・買物や、通勤・通学など、市民生活の多くの場面で必要とされています。路線網のわかりにくさに加え、公共交通の利便性が低いエリアも存在していることから、右の図に示しております、「目指すべき将来の公共交通ネットワーク」をイメージしながら、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの形成を進める、としているところです。

右の図の「目指すべき将来の公共交通ネットワーク」についてですが、現在の計画に登載している「函館市の公共交通のめざすイメージ」と比較し、幹線、主要な路線とそれ以外の路線を分けるという考え方は大きく変わりませんが、現在の計画では、このすべての路線をバスが担うことになっております。新たな計画案では、幹線以外の路線については、そ

それぞれの地区特性に応じ、バス以外の交通モードも、その役割を担うこととしているところです。

市内の公共交通ネットワークは、公共交通機関の市内主要拠点を赤やピンクの丸で示した「交通結節点」に位置付け、それらの拠点間を結ぶ公共交通を主に路線バスが担う赤い線の「幹線交通」が接続します。

「交通結節点」と市内の居住区域を青い矢印の「フィーダー交通」が接続し、路線バスやコミュニティバス等の地区特性に応じた交通モードがその役割を担います。

そして、市街部における結節点を結ぶ幹線から目的地までの交通を緑色で示した「結節点内交通」とし、路線バスやデマンドバス等の地区特性に応じた交通モードがその役割を担う、としているところです。

次に、基本方針の2つ目は、「来訪者にとってもわかりやすい公共交通の形成」としております。

市電をはじめとする公共交通は市内観光の足として利用されておりますので、市民はもとより、来訪者にもわかりやすい切れ目のない公共交通の形成を目指す、としているところです。

基本方針最後の3つ目は、「公共交通の持続性の確保」です。

公共交通の利用者は低迷しており、加えて、公共交通の担い手不足も懸念されておりますが、市民生活や観光振興を支える公共交通は、将来にわたる持続性を確保していかなければならない、としております。

続きまして、8の「基本方針の実現に向けた計画目標と目標達成のための施策」ですが、

まず、計画目標として、4つ掲げております。

1つ目が、「地区特性に応じた最適な運行形態による移動サービスの導入と再編」です。

先程の「目指すべき将来の公共交通ネットワーク」のイメージを念頭に、わかりやすい路線網への再編、車両の小型化やデマンド化、交通空白地域への新たな移動サービスの導入など、地区特性に応じた効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの形成に向けた検討・取組みを行っていくとしているところです。

2つ目が、「交通機関間の接続の円滑化」です。

「目指すべき将来の公共交通ネットワーク」は乗継ぎや乗換えが現状よりも増えると考えられ、接続性の向上や交通拠点の機能強化による乗換環境や乗継利便性の向上に向けた検討・取組を行っていくとしているところです。

3つ目が、「公共交通の利便性向上と意識醸成による利用促進」です。

公共交通を持続していくためには、利用者を増やす必要がありますので、市民への広報活動などによる、公共交通利用の意識付けや、公共交通の利便性向上、利用しやすい環境づくりを行い、公共交通の利用促進を図る、としているところです。

4つ目が、「地域公共交通の担い手確保」です。

昨今の報道にもありますとおり、バスやタクシーなどのドライバーが不足する中で、公共交通を維持していくため、ドライバーの新規採用に向けた取組みや車両の小型化によるド

ライバー選択肢の拡大など、公共交通に係る担い手の確保に向けた取組みを行っていく、としているところです。

次に、目標達成のための施策ですが、

1つ目が「バス路線の維持および効率的な公共交通ネットワークの形成」です。

2つ目が「地区特性に応じた運行形態の見直しによる交通の確保」です。

3つ目が「バス路線網を踏まえた交通結節点の乗継利便性向上」です。

これには、運行時刻表や系統図などの各種情報時発信の工夫や、待合環境の向上などが考えられるところです。

4つ目が「新技術を活用した新たな移動サービスの導入」ですが、これには、昨年度、南茅部地区などで実施した、グリーンスローモビリティの活用なども考えられるところです。

5つ目が「公共交通の利用促進に向けたソフト施策の推進」です。

こちらは、広報やイベント開催などによる、利用促進のためのソフト施策を展開していくことが考えられます。

6つ目が「来訪者にとっても公共交通を利用しやすい環境の構築」です。

こちらは、インターネットなどICT技術を活用した情報提供などが考えられるところです。

7つ目が「公共交通ドライバーの確保」です。

こちらは、公共交通ドライバーの魅力などの情報発信や就職イベントの開催により、関心を持っていただく取組みなどが考えられ、既に一部取組みを始めているところです。

目標達成のための施策は以上になりますが、

具体的な事業については、今回の調査結果を踏まえ、今後、交通事業者などの関係者との協議や、函館市地域公共交通協議会での議論などを経て、決定してまいりたいと考えております。

最後に、計画達成状況を図るための評価指標ですが、5項目挙げております。

1つ目が公共交通利用者数の減少率と人口減少率の差で、利用者減少率が人口減少率を上回らないこととし、路線バス利用者数の減少を抑制し、持続可能な公共交通が実現しているかを評価します。

2つ目が乗合バス事業経常収支率で、令和10年度には、コロナ前の67.6%から改善目標として設定した75%まで向上させることを目標とし、バス事業者の経営面から持続可能な公共交通を構築できているかを評価します。

3つ目が主要交通結節点利用者数で、公共交通がまちの賑わいに寄与しているかを評価します。

4つ目が公共交通利用者の満足度で、利便性に関する各種施策等により、公共交通に対する市民の満足度の向上が図られているかを評価します。

5つ目が公共交通ドライバーの確保に向けたイベントの参加人数です。これは担い手確保に関する各種施策等により、公共交通ドライバーに対する関心度を評価するものです。

次の3ページからは計画書の本編から、東部地域に特に関わる箇所を抜粋したものとなっております。

資料3ページ目(63と64ページ)は、昨年10月に、函館市地域公共交通協議会事務局がシルバー人材センターの協力を得て実施した、東部地域を運行する路線バスに実際に

乗り込んでアンケート調査を行った際の、アンケート結果について記載しているページです。

図5-18の「外出目的」は、通勤・通学や通院、買い物といった日常生活が多く、レジャーや観光といった余暇における利用は限定的でした。「その他」に含まれているものは、知人や親せきの家を訪ねるためといったものが多くありました。

次に、図5-19の「利用頻度」は、「週5日以上」と答えている人が全体の3割程度おり、週に1度以上乗る人は全体の半数に達しておりますが、一方で月に数日以下、と回答した人もほぼ同数おりました。

図5-20で「公共交通で重視するポイント」ですが、これは他の地域との大きな違いが無く、運行本数や定時性などバスの利便性に関わる項目が重視されていました。

次の4ページ目（98から99ページ）では、東部地区の概況を分析しています。

左側の98ページでは、人口などの基礎的な情報を整理しており、東部地区の高齢化率は48.6%と他地区と比較して最も高く、令和2年から令和22年の間では約3割の人口が減少する見込みとなっております。

下の地図は人口分布を色で示したメッシュ図に、バス停から300mの範囲を赤丸で囲んだ地図を重ねたもので、榎法華の元村方面など、一部の地区ではバス停まで300m歩いてもとどり着けない地区があることが確認できます。

右側の99ページでは、東部地区内の公共交通について整理しており、路線バスのほか、地域福祉バスなどの無料交通が運行していることがわかります。

最後の5ページの左側100ページは前ページからの続きです。

図6-18では、住民アンケート調査の結果から、東部地区の公共交通に求められているニーズを分析していますが、路線バスの運行本数が限られていることから、これを増やしてほしいという意見や、長大な路線が多いためか運賃についての意見が目立ちました。

下段では東部地区における問題点として、

①他地区より高齢化率が高く、今後、公共交通を必要とする高齢者がますます増加することを懸念しています。

②路線バスの利用者が極めて少なく、行政による補助金が多く投入されている状況にあります。

③利用者が少ないことにも起因しますが、運行本数が少なく、バス停までの距離がある地区もあることから、公共交通の利便性が低い地区と言えます。

これらの現状分析を踏まえ、先ほど概要版でご説明したような基本方針、計画目標、そして施策を検討いたしました。

その施策のなかでも、特に東部地域に係る箇所が右側の112ページに抜粋したもので、施策2の「地区特性に応じた運行形態の見直しによる交通の確保」です。

路線バスの利用が少なく、大型車両としての優位性が活かせない地域においては、小型の車両を用いることにより、これまで大型バスが入れなかった細い道にも入っていただけるようになることから、利便性を向上させられるほか、運行が効率的に行える可能性があります。

また、利用が無い時の運行を行わないことで運行効率を向上させるため、予約制を採用することも考えられますし、そ

	<p>の他の移動手段として地域福祉バスやスクールバスを活用することも考えられます。</p> <p>例えば、現在各支所が運用している地域福祉バスの運用方法を、各支所ごとに異なる地域住民の移動ニーズに合わせた形にすることができれば、函館バスの事情により運行内容が決まってしまう路線バスよりも使いやすいものにできるかもしれません。</p> <p>その他、住民自らがハンドルを握る自家用有償旅客運送の仕組みなども上手く組み合わせれば、事業者頼みでは何かと不便だった公共交通が、もっと地域の实情にあったものに変えられるのではないかと考えています。</p> <p>以上、函館市地域公共交通計画（素案）について、ご説明いたしました。</p> <p>こちらは、現在パブリックコメントで計画案についてのご意見を来月12月18日まで募集しておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、この計画そのものはマスタープラン、つまり基本方針として定めるものですので、具体的に何をどうするという細かいことには触れておらず、それらは計画策定後に色々のご意見を伺いながら具体的に検討することとなっています。</p> <p>特に東部地区については、地域の繋がりが強く、住民同士が助け合いながら生活している地域と理解しておりますので、この公共交通の課題についても、今後どのような交通が必要なのか、維持できるのか、一緒に考えていければと思います。</p> <p>私からのご説明は以上となります。ありがとうございました。</p>
座長	横山課長ありがとうございました。

若干おさらいをしながらいきたいと思いますけど、これまでの懇談会では、様々なご意見をいただいた中で、それらがどのように計画の素案に反映されたのか、といったことがポイントとなるものと思われませんが、ここでちょっと振り返りをしておきたいと思います。昨年度、第1回目の懇談会では、ご出席の皆様からは、

- ・この地域の路線バスの利用者が少ないという現状については、皆さんが承知しているものの、実際に利用している地域住民にとっては必要不可欠なものであること。

- ・このため、様々な創意工夫を行いながら、場合によっては路線バスにこだわることなく、市内中心部への移動手段を確保してほしいというご意見もありました。

- ・現在の路線バスが使いづらいというご指摘もありました。

第1回の会議録を見させていただいて、こういったことが書かれておりましたので、この場で確認したいと思います。

それから、昨年度、第2回目の懇談会ですけれども、

- ・東部地域で開催された住民ワークショップの概要などが報告されて、これは先ほども私から申し上げましたけれども、公共交通に関わる今後の取り組みといたしまして、市として「令和5年度中に『函館市地域公共交通計画』の策定を目指している」旨、説明がありました。

- ・また、新たな公共交通の導入手法として、「グリーンスローモビリティ」や予約運行方式であります「デマンド交通」、さらに自家用車を用いて有償で運送できる「自家用有償旅客輸送」などについて、企画部から詳しい解説がありました。

そうした中で各委員からは、

- ・デマンド交通への期待
- ・地域福祉バスを利用する際の利用条件の緩和
- ・そして、バスの小型化による運営経費の圧縮

などについて、ご意見が寄せられた中で、最終的には、「公共交通は大事な問題なので、本協議会の検討テーマとして、継続して議論すべきだ」というご意見もあり、そのような経過から、本日は、3回目となる討議の場を設けたわけであり
ます。

この辺までは、よろしかったでしょうか。

(異論なし)

そうした中で、今回の計画素案の概要について、企画部から説明がありましたので、まずは、素案の中身について、ご意見を頂戴したいと思います。

ここで、議論のポイントとしては、資料の最終頁をご覧いただきたいと存じますが、素案の一番大事なところと言いますか、今までの議論を経て、データを積み重ねて、最終的にこういうことやっていきましょうという方向性だと思うのですが、素案に施策として抽出された「地域特性に応じた運行形態の見直しによる交通の確保」に関しまして、

- ・表の「概要」の部分には、「新たな交通の導入を含め、路線バスだけに頼らない地域特性に応じた運行形態の検討を進める」とあり、

- ・その具体的な内容としては、「将来的なバス路線廃止を見据え、新たな交通の導入を検討する必要がある」

- ・このため「運行車両の小型化、予約運行方式（これはデマンド交通ですね）、そして自家用有償旅客輸送の導入を検討」し、地域の足の確保を目指すという方向性ですね。

- ・それから、「地域福祉バスや学校送迎バス、病院バス等の活用を検討する。ドライバー不足にも配慮する。」ということがポイントであるということで、今までの2回にわたる討議の結果、それと今回出てきました基本計画の素案の具体的な内容を確認して、ご意見をいただきたいと思うのですが、いき

	<p>なりご意見をと云っても大変だと思いますので、キーワードを元に私の方から、指名させていただきますね。</p> <p>前回、戸井の植野委員からは、デマンド交通への期待が述べられておりましたが、その他何かご意見ございますか。</p>
植野委員	特にありません。
座長	南茅部の佐々木委員からも同様に前回、デマンド交通一つの出口ではないかのご意見ありましたが
佐々木委員	<p>お話になっていた5ページの今までの交通のバス路線が何回走って、何時に来てという時刻通りの運行が維持できないという部分は寄せておいて、違う発想で考えたほうが良いのかなというふうに思うんですね。</p> <p>今言うと、色々な問題が付随して出てくると思うのですが、例えば、路線バスをやめて、小回りがきくように小さい車で、もっときめ細かく駐車できる場所も用意して、利用しないときは休む、何人か揃ったら動くとか、そういう発想に変えたほうが無理がないし、利用者に喜ばれるのではないかと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>現状では、デマンドとか細かく回れる車両の小型化とか、そういったものがいきなり始められるものではないと思うのですが、今後、動向を見据えながら、基本はメインの路線があってそこからの交通手段が少ないということですから、そういった部分を担うときに、抜本的な解消策としてデマンド交通とか自家用有償旅客輸送などが考えられるということかと思いますが、横山課長、どうですか。</p>
横山課長	<p>ご意見ありがごとうございます。</p> <p>我々もこの間、調査検討を進めて、結果をなかなかお見せできないこともございますが、今のこの地区の路線バスの乗車の現状からすると、朝は旧市内に高校生が通学する利用が</p>

	<p>多いので、そこはまだまだバスが必要で、小さい車にするのは難しいと思っています。夕方部分も若干の分散がありますが、学校帰りに利用するので需要があります。ですので、朝と夕方については従来の路線バスが必要だと考えています。</p> <p>ただ、残る日中の部分については、皆さんからも「バスが空で走っていて大丈夫なのか」と、「小型化したほうがいいのでは」というご意見もありますので、その辺の部分についてデマンドや自家用有償旅客輸送などバスに頼らない、非常に今、バスの運転手の現状が厳しいということで、最近色々テレビとか新聞に出てますのでそういった部分も対応していかなければならないという時期に来てますので、他の交通手段を取り入れる手法について時間をかけて検討して参りたいと思います。</p>
座長	<p>それと前回、恵山の薦委員からもデマンド交通に期待する一方で、自家用有償旅客輸送の設定料金がどうなるのか、路線バスよりもかなり高くなるのではないかとということで懸念が示されておりましたが、改めてご意見を頂戴したいと思います。</p>
薦委員	<p>皆さんおっしゃるとおり、この地域に大型バスを走らせることは、ほとんど乗客が日中いないということで、特に恵山地域については、地域福祉バス、病院送迎バス、スクールバスが毎日走っておりますので、そういうのを行政の方で少し柔軟な考えで、これを利用できる方法も一つあるのかと、また、小型化してドライバーを雇うのが難しいというのがあり、地域では高齢化率が50%を超えていて、買い物などは親戚や近所の人と乗り合いで出かける方が多いですから、利用できる、現在走っているバスをなんとか利用できないものか考えております。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p>

	<p>前回の会議でも、地域福祉バスやスクールバス・病院バスの使用ハードルを下げてみてはどうかという話しにがありましたので、皆さんからいただいた意見をもとに引き続き検討していく必要があると思いました。</p> <p>薦委員ありがとうございました。</p> <p>前回、戸井の松田委員からもお話しいただきました。自家用有償旅客輸送に関して担い手の問題について、地域の高齢化率が高いということ、それとコストの面で、逆に高くなってしまっているのではないかとということでもう少し研究が必要だというご意見がありました、改めて補足するような部分がありましたら、ご意見をいただきたいと思えます。</p>
松田委員	<p>例えば、戸井地域には中型と小型のスクールバスが2台走っていて、朝の送迎が終わると、午後から戸井の西部総合センターの駐車場に帰りの送迎時間の14時半くらいまでずっと停まっています、その間の有効活用があるのではとも思われますが、行政や学校、陸運局とか様々な問題点があることが分かったので、今こうの方がいいという発言は簡単に申し上げられないのが現状です。</p> <p>将来的には具体的な検討は必要だと感じています。</p> <p>実際、中を掘り下げると色々問題が出てくる。</p> <p>指名されて答えになったような答えになっていないような内容で申し訳ないのですが、以上です。</p>
座長	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>具体化したときにどのような課題、問題が出てくるのかということと思うのですが、その時にまた、企画部の方で地域に寄り添いながら進めていくと申しておりましたね。</p> <p>ご意見ありがとうございました。</p>

	<p>続きまして、今回はマスタープラン、基本計画という位置づけですから、施策も細かい部分にまでは言及されておりませんので、その辺は、横山課長からの説明にもありましたとおり、具体化の際には、「色々のご意見を伺いながら具体的に検討する」とのことですし、「一緒に考えていきたい」とのことですから、大いに期待をしたいと思います、その辺も含め、榎法華の川口委員、前回の会議では、「集中的に何回か議論の場を設けて結論を出して行くようにした方がいい」ということで、討議の方法についてご意見をいただきましたが、担当部としては、「今後も一緒に考えていきたい」ということで、メッセージをいただきましたが、如何でしょうか？</p>
川口委員	<p>説明を聞いて、マスタープランについて現状をきちんと分析していると思いますけれど、これから5年計画の5年後まで待ってられない地域事情がありまして、高齢化が進んでいる点です。地域の特性が様々あるので、地域の方から1年位かけて提案を市の方にして、それを検討していただいた方が、より実現可能な交通体系ができると思います。</p> <p>公共というのは全体という意味ですから、人口が多い少ないの問題ではないということの理解で、福祉計画にも一人の不幸も見逃さないというのが市の方針にあるので、そのラインに沿って、各地域の独自性を出して行ったほうが良いと思っています。</p> <p>今日の新聞で西部地区の風呂難民の話もありましたが、古くから住んでいる人をおろそかにしているのではないかと、市の財政事情が厳しいとの記述もあり、そうなれば、人口の少ない過疎地域が犠牲になる可能性がありますので、地域の特性を提案していくことがより現実的なものだと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p>

	<p>地域の特性は地域が一番知っているから、地域から提案していくステップがあってもいいのではないかというお話だと思います。この点については、繰り返しになりますが、企画部でも一緒に考えていければという話ですから、お互いに話を聞いて進めていければと思います。</p> <p>南茅部の熊谷委員も前は「大事な問題なので、できれば公共交通をテーマとした議論を継続すべきだ」ということで、ご意見を頂戴しておりましたが、今後の議論の手法については、これはマスタープランですから、具体化に向けてさらに検討していきたいという話で、具体案が何か見えてきたときには、また、検討したいという話ですけれども、付け加えることがありましたら。</p>
熊谷会長	<p>皆さん申し上げたとおり、公共交通は事業者をお願いして運行していただいている現状で、共通意見として、地域だけのことを考えると現行の病院バス、スクールバス、地域福祉バスを運用するのはそれほど難しいことではないと思います。</p> <p>一番の懸念は旧市内へ行く手段をどうするのかというのが一番の問題だと思います。その点について皆さんと議論できればいいなと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>軸線と支線の考え方からすると、朝晩は通学バスがありますが、さらに充実することができないかという可能性を含めてということと思いますが、全体の交通需要を含めながらまた新たな提案があるということでございます。</p> <p>本懇談会としても、設置期間は令和6年度までの概ね5年間となっております、残すところあと1年半弱となっておりますが、新しい動きが出てきた場合は、企画部からの説明を求めたいと思いますので、よろしく申し上げます。</p>

	<p>なお、12月18日までということで、あとひと月ほどパブリックコメントを募集中とのことですから、本日、言い尽くせなかったご意見がある場合には、よろしくお願ひいたします。</p> <p>他にご意見がなければ、本件につきましては、以上をもって終了といたします。</p>
--	--

4 議題 (2) 地域活性化の取り組みについて

座長	<p>続きまして議題の(2)「地域活性化の取り組み」に入ります。</p> <p>冒頭のあいさつでも申し上げましたが、本懇談会の目的は「東部地域のまちづくり」を目的として令和2年度に設置され、これまで観光を基軸とする地域振興、さらに地域交通について議論をしてまいりましたが、それでも少子高齢化や、地域の人口減少は進んでおりまして、我々は何となくマイナスイメージに包まれている感じさえいたします。</p> <p>しかし、昨今、新たに地域に移住された方がお店を開いたり、市民発意のまちづくり活動が展開されるなど様々な動きも見えてきております。</p> <p>そうした東部4支所地域の活性化につながる各種の事例をご紹介させていただき、皆様との意見交換を通じて、繰り返しになりますが、最終的には、「自分たちも何か始めよう」とか、「応援しよう」というムードづくりの一助としたいと。</p> <p>これは私、勝手に思い描いておりますので、今回は「地域活性化の取り組み」を議題の一つとして設定させていただきました。</p> <p>まず1つ目として、「北海道教育大学函館校の地域づくり支援実習」ですが、これは昨年は、南茅部で実施しておりますが、今年は東部4地域にまたがる形で展開しております。そ</p>
----	--

	<p>の中身を，南茅部支所から外山地域振興課長，説明をお願いします。</p>
<p>南茅部支所 地域振興課 外山課長</p>	<p>それでは，資料の方は皆様にお配りしておりますが，パワーポイントで説明したいと思います。</p> <p>1 昨年度から受け入れ，実施している【地域づくり支援実習】についてです。</p> <p>2 この実習は，北海道教育大学函館校の授業の一環です。道南を中心とした地域で，それぞれに配属された3～6人の学生が一定期間滞在し，活動しながら地域の抱える課題を調査・把握した上で，地域発展に繋がるプロジェクトの構想・実施を目標とするプログラムです。昨年度は南茅部地域のみで実施しましたが，今年は東部4地域全体を実習地としました。</p> <p>3 実習のきっかけとなった，函館市と北海道教育大学の相互協力協定は，18年前の平成17年に締結されており，協力事項の1つめに地域づくりや地域発展に関することが挙げられています。</p> <p>4 昨年度から教育大と連携して実施した事業は【地域づくり支援実習】だけではなく，公共交通のあり方に関するワークショップが昨年度のみですが2回実施され，実際にバスを利用している高校生を含む地元の方々とお話して，検討しました。</p> <p>では，地域づくり支援実習について詳しくご説明します。</p>

5 期間は大学の夏休み期間中の7月下旬から9月上旬の間の2週間で、令和5年度、今年度に関して言いますと、8月14日から8月26日の13日間、東部地域、戸井・恵山・楳法華・南茅部で実施しております。

基本的に南茅部地域内にある支所の職員住宅に学生さんたちが集団で寝泊まりして、地域内の宿泊施設も利用して、何日か宿泊させていただきました。また、次年度以降も継続して地域とのつながりを作っていくことが課題解決に必要であるため、なるべく学生に金銭的負担がかからないように実施しています。

6 こちらは、令和4年度の実習状況をNHKに取材していただき、放送されたニュース動画になります。(参考リンク：[函館・南茅部 活性化のヒントを学生が探る NHK 北海道](#))

7 今年度、東部地域で実施した実習について、ご協力いただいた施設や団体等を順番にご紹介します。戸井では、昆布種苗センターやウォーターパークでの業務体験や、あ月の花というお店での意見交換、観光名所の視察などをしております。

8 次は恵山地域ですね。道の駅「なとわ・えさん」内や隣にある飲食店での就業体験などを行っております。また、恵山に登ったりキャンプ場などを訪れたりしました。

9 次に楳法華では、ホテル恵風にご協力いただいて、泊まり込みでの就業体験や、ペット用のジビエ商品を販売している楳法華地域に移住されている方にインタビューをしたほか、恵山岬灯台などの景勝地も視察しております。

10 南茅部では、昨年の実習同様、昆布漁師の方の倉庫で製品化の作業の体験や、コンブ製品の直売所や遺跡の視察、飲食店での就業体験などをしております。また、今年度は南茅部リバイブサロンという団体の方々が組んだアドベンチャーツアーに実証実験として参加しております。昨年度は地域の方、延べ90人、今年度はさらに多くのご協力をいただいて、無事実習を終了することができております。

11 今回の地域づくり支援実習で得たものは、令和4年、令和5年同様なのですが、東部地域全体に関わっても貴重な学生目線でのご意見をいただいているということ、地域のみなさんとの交流や意見交換・見学を通じて、地域の人には当たり前すぎて気がつかない魅力や特徴に気づき、それらを活かしたり改善したりするような地域づくりを提案していただいております。

また、短期間であっても学生が地域内で様々な活動をしているということ自体が地域住民の意識の変化に繋がっております。自分たちの地域だから自分たちで良くしていかなければならないといった主体的になる意識が表面化してきたような感じも受けます。

そして、実習以外でも学生が南茅部地域に訪れる機会も得ました。昨年度の実習生には吹奏楽部の部員がいた縁で、昨年度の縄文まつりに始まり、今年度も地域のお祭りに2回とも出演していただいております。

12 昨年度は現状や課題をまとめ、地域の魅力や可能性をどう活用できるかを考えるところで終了したのですが、今年度はそれを踏まえ、具体的に交流人口を増やす起爆剤と言いますか、その第一歩として、若者目線での東部4地域の周遊ツアーを学生に作成してもらいました。そして、2週間で実際

	<p>に訪れた場所を盛り込んだ日帰りのツアーを、実習最終日に自分たちでシミュレーションしている様子がこちらです。</p> <p>13 参考：南茅部支所 X（旧 Twitter） 東部 4 地域周遊ツアー ※リンクに移動できない場合は南茅部支所 HP から「南茅部支所公式ツイッターはこちら」をクリックしてください。Xのアカウントがない場合は、サイトにアクセスできない可能性があります。 https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2020013000079/</p> <p>14 最後に今後の展望です。まずは昨年同様、年度末に今回の学生 3 人が実習をとおして考えた地域活性のアイデアを地域に戻って住民に発表する場を設けます。</p> <p>そして、今回学生が作成したツアーは、シミュレーションを経て、より実現可能性のある内容になるよう再構築しているので、最終的に発表されるものは、今後、市のホームページなどでPRして行きたいと考えております。</p> <p>15 これで地域づくり支援実習の説明を終わります。南茅部支所の X（旧 Twitter）で実習の様子なども投稿しているのでぜひご覧ください。以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ご意見は後ほどまとめていただきたいと思います。</p> <p>次に戸井支所の報告をお願いします。</p>
戸井支所 佐藤支所長	<p>私の方からは、地域の活性化の取り組みということで、直接的なものではありませんが、I ターンで愛知県から戸井地域に移住されて、お店を構えた方の紹介でございます。</p> <p>資料にある北海道新聞でも紹介されておりますけれども、今年の 3 月に戸井の釜谷バイパスの近くに「あ月の花」という和菓子店がオープンしました。戸井地区には飲食店とかお店がほとんどなく、ようこそ戸井へという感じですが、愛知県の老舗和菓子店で 30 年以上勤めていたご主人が独立する</p>

	<p>という事で、地元を離れて奥様の実家がある函館で物件を探していたところ、いい物件がたまたま釜谷町にあったということでございます。</p> <p>お店の方は奥様と二人でこじんまり経営されており、ご主人が一人で和菓子を作っているため、広告等は一切出さずにSNSだけやっているそうですけれども、口コミなどが広がって、夕方5時が通常の閉店時間ですけれども、閉店前に商品が売り切れることも頻繁にあったため、この10月から時間を繰り上げて4時閉店に変更したそうでございます。</p> <p>また、地域のイベントにも看板商品のどら焼きをお土産として配られたりしておりまして、大人気の和菓子屋さんとなっております。</p> <p>先週、戸井地域の生涯学習事業のふれあい学園を実施した際に講演と実習にもご協力いただきまして、参加した方にどら焼きを実際に作ってもらうといった地域の方々とのふれあいも行っていたいております。</p> <p>支所としまして空き家対策や移住政策を直接的には行っておりませんが、お店を開くにしても商圈からしてもなかなか難しい地域である中、こうして移住され、お店が賑わって、地域の方々との交流があるなど、地域にとってはうれしい事例ということでご紹介をさせていただきました。</p>
座長	<p>佐藤支所長ありがとうございました。</p> <p>続きまして、恵山支所清藤支所長お願いします。</p>
恵山支所 清藤支所長	<p>恵山では、道の駅なとわ・えさんにおいて、今年度開催している定期イベント、こちらについてご報告させていただきます。</p> <p>この取り組みは、道の駅なとわ・えさんを観光拠点施設としての機能を最大限に活かすため、市の公募した出店者と地域の住民の方々、関係団体と連携してイベントを企画開催す</p>

ることで、当該地区の誘客を強化して賑わいの創出や地域の活性化を図ろうというものでございます。特に、民間の発想力と地域団体の連携に重点を置いて取り組みを進めているところでございます。

イベントの実施体制といたしまして、昨年9月に設立した道の駅なとわ・えさんイベント実行委員会が主催し、道の駅だけでなく地域全体の誘客を強化するという目的で、地域の団体の方、民間の団体の方と連携したイベントを企画開催しており、こういったコラボでイベントを開催することによりまして、互いの集客力にそれぞれ相乗の効果があり、また、訪れる人の満足度が上がるという、非常に良い方向に進んでいると考えております。

令和5年度のイベント開催実績ですけれども、5月から10月まで毎月1回の日程でイベントを開催しておりまして、入込数についてはそれぞれ記載した数字のとおりとなっております。7月にはバイクミーティングというものがコラボで開催されたほか、9月には函館東商工会の秋祭りとのコラボイベントを開催いたしまして、今年度最大の入込数となったところであり、この場をお借りしまして東商工会のお力添えに感謝を申し上げる次第でございます。

近年のなとわ・えさんの入込数の推移といたしましては、令和3年度はコロナ禍で入込数が底を打った年でありまして、約12万人、令和4年度は行動制限が解除され、徐々に外出する方も多くなりまして、道の駅におきましては、公募した出店者と5月から順次、売店・レストラン・カフェがリニューアルオープンし、また、令和4年度も毎月ではありませんが、年3回イベントを開催したところでありまして、その結果、前年比87%アップの22万人と大幅に入込数が増加しました。

	<p>また、令和5年度は4月から9月までの上半期だけの数字になりますが、前年比7%アップの16万人と昨年度の実績を上回る結果となっております。</p> <p>本件取り組みについては、恵山支所といたしましてもこういった成果が一過性のもので無いよう、引き続き取り組みの方を進めてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様のお力添え、ご協力の方をお願い申し上げて報告を終わりとしたいと思っております。以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、楳法華支所三原支所長お願いいたします。</p>
楳法華支所 三原支所長	<p>添付した資料の2枚目となります、こちら11月2日付の北海道新聞の記事です。楳法華地区人が集う場という見出しで3人の移住者の取り組みを紹介しております。</p> <p>せっきくの機会ですので紹介させていただきますが、左側の方が北條さんです。神奈川県警で山岳救助隊をしていたという異色の経歴の方です。手に持っている「熊鹿庁」という名前で起業いたしまして、現在はペットフード用のシカ肉を用いたジャーキーを製造販売しております。将来的には人が食べる食用のジビエも製造したいとお話ししております。</p> <p>中央の方が五ノ井さんです。この方は楳法華出身でUターンいたしまして、父親の業務を承継しているところであります。帰ってきてから大型の免許を取得し、楳法華地域の市道の除雪もお願いしているところです。ちなみに、五ノ井さんのお姉さんが北条さんの奥様ということで、義理の兄弟になっております。手元にしいたけをもっておりますが、しいたけの栽培もしております。</p> <p>右側が道下さんです。この方も楳法華出身ということで、中学校卒業後に楳法華を離れまして、15年ぶりにUターン</p>

ということで、祖母のお店と地域の新聞販売所を承継していると伺っております。

この3人ですが、昨年、日本財団が助成する事業、「海と灯台プロジェクト」というのがありまして、楸法華地区には恵山岬灯台がありますので、市内の企業のお誘いで楸法華支所の方に相談がありまして、それで一緒に共同してイベントを開催しようということで応募した所、採択されました。

昨年は試験実施ということで、フォトコンテストですとか、灯台の歴史ですとか地域の地形の歴史などを灯台ガイドウォークとして案内してみたり、灯台の下に簡易サウナを設けて、灯台サウナを実施しました。昨年度は日本財団が100%お金を出してくれたところでした。今年度実施にあたって、この若い3人を中心に何かできないかということでミーティングを重ねまして、「灯台ホリデイ」というものを実施いたしました。その間、この3人で地域活性化を目指して「ライズマン」という名称でグループを結成し、そうして、今年も日本財団の「海と灯台プロジェクト」に応募したところ、採択されました。今年度は80%助成ということで、残りの20%は事業の収益や協賛金の持ち出しが必要になりました。函館市は特に補助金を出しているわけではないので、あくまでも売上等で残りの20%を賄わなければならず、事業は10月から11月の各週の土日祝日という形で、最終的に昨日終了したのですが、やはり、申請時期と採択される時期の問題があって、寒い時期にずれこんでしまったということもありまして、若干苦戦したという話を聞いております。

来年度も自分たちの力で地域活性化に取り組んでいきたいというお話をお伺いしておりまして、このライズマンを中心に仲間も増やしていければなと思っておりますので、そうした形で少しでも活気のある地域を作っていきたいと考えております。

	<p>楳法華支所からは以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここまでの4支所の動きの中で、ぜひとも質問したいこととか、聞いてみたいことがありましたら、お話しいただきたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>(質問なし。)</p> <p>なければもう少しだけ私の方から説明させていただきます。</p> <p>実は南茅部について、本当は動画を用意していたのですが時間の関係で省略いたしますけれども、MRS（南茅部リバイブサロン）という南茅部を活性化する活動をしていて、NHKでも取り上げられたりしている地元の十人衆がおります。</p> <p>彼らの発意の原点は、このままでは人口減で地域が疲弊していく、なんとかしなければ駄目だ、そのためには他の地域からお客さんを連れてこよう、そして定住してもらおうという高い思想を掲げて、今年の春くらいから活動を始めたのですが、南茅部支所長室で月2回くらい会議を開いているうちに団体として自立したほうが良いということで、まもなくNPO法人化を目指しています。</p>
<p>座長</p>	<p>議題の③その他でございますけれども、</p> <p>次回の日程として恐縮ですが、来年の2月くらいに2回目を開きたいと思うのですが、その際に今お話しがあった、「あ月の花」さんですとか、あるいは恵山の道の駅の事業者さんですとか、楳法華3人衆とか、MRSの代表の方とか。</p> <p>そして、資料にもありますけれども、地域おこし協力隊が今南茅部に1名着任していて12月からもう1名来ます。2名が揃うのは12月からになりますので、2月の段階で顔合</p>

	<p>わせを含めてこの場にお呼びをして意見交換をしたら、なかなか面白いのではないかと考えておりました。</p> <p>一番最後のページに懇談会の規約がありますのでご覧いただきたいのですが、開催要項に「参集者は必要に応じてその他関係者の出席を求めることができる。」となっておりますので、次回の懇談会にお越しいただき、話を聞いてみたいと考えております。</p> <p>議題の中の4（2）の③にも繋がるのですが、次回の議題をこの方たちとの懇談ということでお呼びをしたいと考えているのですが、皆さんどうでしょうか。</p> <p>特段ご意見がなければそのような形でやらせていただきたいのですがよろしいでしょうか。</p> <p>（異議なし。）</p> <p>次回については、そのようなテーマでお願いしたいと思いますが、それ以外に何かテーマとして取り上げたほうが良いという方がおりましたらご意見いただきたいと思います。</p>
川口委員	<p>先程の教育大生のお話の中にあって思い出したのですが、縄文文化センターも1回来たらもう来ないという意見もありましたけれども、公共交通と合わせて考えたのですが、世界遺産に登録されると普通は爆発的に観光客数が増えますよね、それが無いのは、内容は素晴らしくあると思うが、アクセスが無いのが最大の欠点だと思います。</p> <p>縄文では北海道が縄文遺跡群の道内拠点施設を造りたいとして、函館市が有力候補であると聞いておりますが、こっちの方に造ってもらえればいいのですが、旧函館市内に造ったりすると、そっちの方に客をとられて、こっちがもっと来訪者が少なくなる可能性があるということもちょっと頭に入れてほしいなと思います。</p>

座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>世界遺産効果の見込みとして、お客様は、まずは3割程度増えて、それから徐々に落ちていくことを想定しておりましたが、現実的にはコロナもあって、なだらかに上がった後は、今日、若干ピークを過ぎた感もあります。</p> <p>このままでは駄目だということで、次の新機軸を打ち出すため、教育委員会でもAR・VRを使い、携帯をかざしたら映像が見えるなどの取り組みなどをしております。</p> <p>ただ、アクセスの問題は確かにあります。路線バスを使っていくというのもなかなか厳しい状況ですけれど、それを踏まえて南茅部支所の事業として「縄文ライナー」を今年の夏に実施しました。まもなく対外的に成果を発表いたしますが、良い結果が得られました。5千円を払って来る人がいるか不安でしたが、最大で30人くらいバスに乗って、素晴らしいバスガイドさんが付いてくれて、縄文センターに着いたら学芸員が説明してくれて、垣ノ島も大船もスタッフが説明して、その後で南茅部のおいしい食べ物を食べて、漁協の直販加工センターでお土産を購入して帰るという一連のパッケージなのですが、成功しました。</p> <p>アクセスがいかに重要かということがわかりましたので、今回は市の実証実験という形で実施したのですが、来年以降はバス会社さんが自走できるように伴走支援を行っていきたいと考えておりました。</p> <p>そのほか、縄文遺跡までのバスの乗り放題のチケットを函館バスが実施したり、縄文センターにバス停を設置するなどアクセス向上に関しては、支所としてもサポートさせていただいているところでありまして、それらを発展させていくことが次への鍵であると考えております。</p> <p>世界遺産は大事ですからね。大事に育てていくという気持ちでおりますし、私は来年3月で退職いたしますが、期間内</p>
----	---

	<p>は精一杯頑張らせていただいて、新しい支所長にも引き継いで参ります。</p> <p>そのほか、次の会議の議題についてご意見などないでしょうか。</p> <p>(意見なし。)</p> <p>なければ今回説明させていただいた方々をお呼びして、日程の都合もありますが、ご本人からご説明いただくことなどをしていただいて、冒頭に申し上げました新しいことに対して「よくやっているな」というお褒めの言葉でもよろしいですし、あるいは自分もやってみようとか、それが論理の飛躍だとしたら、応援していただくとか、そういった機会を作りたいと思います。</p> <p>次回は、2月下旬になると思いますが、またご案内させていただきながら実施したいと考えております。</p> <p>次に5その他で皆様からご意見を伺いたいことがありますので、外山課長から説明をお願いします。</p>
--	---

5 その他

外山課長	<p>お配りしております、市民の声の回答についての資料をご覧いただきたいと思います。</p> <p>今年の6月27日に「函館市東部地域まちづくり懇談会について」ということで、貴重なご提言をいただいております。ご意見要旨の中ほどのところに「個人的な意見としては、参集者を一般の方々が参加できるオープンな場にし、より多くの意見を集めて地域に反映させてはと思います。」というご要望をいただいております。それと例えば、地域の一般の方々、東部4地区以外の方々や若い世代の方々、指定管理者の関係</p>
------	---

	<p>者、有識者のリモート参加なども取り入れてはどうかという案が示されているところでございます。</p> <p>先程ご覧いただいた開催要項の中には参集者につきまして経過を申し上げますと、平成16年の合併時から15年間続きました各支所に設置されておりました地域審議会の委員の皆さんを中心に20人以内に絞って参集している会議でございます。また、当懇談会の参集者につきましては必要に応じてその他関係者の出席を求めることができるという形で規定しているところであります。</p> <p>市民の声につきましては、当懇談会がより活性化、良い会議になって欲しいという思いが込められていると受け止めております。</p>
座長	<p>この市民の声を要約いたしますと、本懇談会の参集者を4団体に限定しないで広くオープンな場としてはどうかということでございますが、この件に関しまして先程私の方から4支所管内の地域活性化の取り組みということで「必要に応じてその他関係者の出席を求めることができる。」規約に則りまして、次回、地域活性化のためのまちづくり活動を行っている方々にご出席していただくことといたしましたとおりに、規約上も閉鎖的な運用しかできないということではないと思っておりますけれど、この部分を含めてご意見いただきたいと思っております。</p>
熊谷委員	<p>この件については、先程各支所からの事例報告がありましたとおりに、各支所それぞれに頑張っておられると感心しておりますけれども、今後ともこうした取り組みを継続していただければすごくいいことだと思っております。</p> <p>懇談会の参集範囲については、先程支所長も申し上げたとおり、例えば、うちのほうの地域の空き家を購入してイベン</p>

	<p>トを開いている女性がおられまして、2回ほどイベントを開催しております。支所長から説明があったように、そういう方々、楳法華の事例、戸井に来てくれた方もおりますし、そういう方々が実際に地域に入ってイベント等を開いたときにどういう印象を受けたのか、そういう感想でもいいですから聞かせて欲しいなという思いがありますので、どんどんそういう方々をお招きして生の声を聞いていくことが大事なことでないのかと思っております。</p> <p>自分の地域のことは良くわからないんですよね。教育大の学生が言っていたとおり「あたり前」なことなものですから、なかなかどうしたらいいということにならないので、外からの目線で新しい見方の中で情報をいただければ、議論できるそういう場所になっていくのではないかと、それが懇談会の趣旨に沿うのではと思いますので、是非そういう方向で充実した懇談会になることを期待しております。よろしく願いいたします。</p>
座長	<p>熊谷委員ありがとうございました。</p> <p>ご意見いただいたのは、今回発表した事例以外にも尾札部の空き家を購入した方のことですね。非常に積極的な方で、地域の古民家を購入してお店をこれから開くということだと思いますが、イベントを夏と秋に開催していて、基本的には移住定住に近い形です。</p> <p>函館市内でお店をやっている方なのですが、その建物と海が気に入って、という理由で南茅部の物件を購入されたとのこと。</p> <p>今回事例発表した方々を含めて、この懇談会を充実していくうえでは、情報収集という意味からも実際に活動されている方をお呼びするという趣旨だと思いますが、規約上はそう</p>

	<p>いった方々をお呼びするのは特段問題ないわけですから、上手に運用していきたいということですね。そして、4支所管内で色々な活動をしている方を含めて懇談することで、今まさに外部から入ってきた方の横軸での連携が取れたり、広がっていけば良いですねという話だと思います。</p> <p>そういった形で規約に則って運用していくと考えておりますがよろしいでしょうか。</p>
川口委員	<p>何組か接点がありますが、非常に心の熱い人たちで、若い人たちで心の熱い人達は話が長くなるので、なるべくみなさんとたくさんお話できるように時間配分をきちんとしてほしいなと思います。</p>
座長	<p>わかりました。</p> <p>それでは、長くなりましたが、議題に係る討議は、ここまでいたします。</p>
外山課長	<p>本日予定していた議題は、以上で全て終了いたします。</p> <p>最後に委員の皆さんから何かご発言はございませんか。</p> <p>(発言なし。)</p> <p>なければ、繰り返しになりますが、次回の懇談会は来年の2月下旬頃開催を考えておりますが、その開催にあたりましてはあらためてご案内させていただきたいと思いますのでどうぞよろしく願いたします。</p> <p>本日は長時間にわたり懇談いただきありがとうございました。</p> <p>これをもちまして終了いたします。</p>